

岐阜県は長良川を守る責任がある

—美濃市 横越遊水地計画が景観・環境に 影響が出ることを認める—

横越「遊水地」問題学習会

森が半分無くなり、動物が逃げ出しています

2026年6月現在、美濃市横越の長良川の中州の南半分の樹木が抜裁され豊かな森が半減しました。森にはタヌキやキツネが生息していましたが、隣の藍川団地でタヌキが目撃されるようになりました。



2024年4月撮影



2026年6月撮影

長良川上中流域は世界農業遺産

遊水地の建設が始まれば、北側の森の樹木も全て抜裁され、川の中に人工の構造物が建設されます。

この場所が、世界農業遺産「清流長良川の鮎」として認定されている場所で、環境省も「日本三大清流の一つ」として、特に「美濃市～岐阜市を流れる部分」を名水の場所としており、横越地区の長良川は、本川、支流の内川、そして中州の中島と自然豊かな場所です。

長良川のような一級河川的环境を守る責任は、国と都道府県にあります。また、世界農業遺産「清流長良川の鮎」の事務局は岐阜県庁内の里川・水産振興課内にあります。

国土交通省は、令和元年に遊水地の6候補地の調査を行い、「横越地区以外は、周囲堤など部分的に改変されるが、農地利用が継続されることから、環境の変化は小さい」「横越地区は、掘削および周囲堤などにより陸域および副流路が改変される」と、**横越のみ環境への影響が大きいことを認めています。**

遊水地計画は岐阜市の市街地を守るための計画

岐阜県情報公開請求に基づき、岐阜県河川課と中部地方整備局との平成27年11月27日に開催された打ち合わせの会議録を見ると（作成は河川課）、国の担当者（発言者の記述なし）は、県河川課に対して「**長良川遊水地の整備について、遊水地は岐阜市街地を守る施設整備となる**」と説明しています。

国は、遊水地計画を流域治水に基づく計画であると説明していますが、元々は流域治水の視点がないまま、上流の美濃市の過去の災害や豊かな環境も検証することなく、図面で「あまり活用されていない中州がある」として設計された計画であることは明らかです。

三重県はネコギギ・オオサンショウウオ保護指針がある

三重県は、自然と生態系に配慮した「多自然型川づくり」を進めるとして、「特別天然記念物オオサンショウウオ保護管理指針」「天然記念物ネコギギ保護管理指針」を策定しています。また、「自然に配慮した川づくりの手引き」を作成しています。

岐阜県は、日本に誇れる清流長良川だけでなく、木曾川、飛騨川、揖斐川などの河川が流れる川と森が豊かな自然を保っています。その河川を先頭で守るのは河川課のみなさんです。

池尻・横越の選定理由は経済的効果が目的

用地取得方法	候補地					
	(下流側)				(上流側)	
	下白金	保戸島南	溝口	小瀬	池尻	横越
調節量 (m3/s)	27	51	137	65	68	183
概算事業費 (億円)	30	56	110	83	30	108
m3/sあたり事業費	1.11	1.10	0.80	1.28	0.44	0.59
順位	5	4	3	6	1	2
1位+2位	-	-	-	-	○	○

前述のとおり岐阜市を守る計画ですから、候補地は忠節橋よりも上流の6か所が候補に上がりました。

6か所から横越と池尻が選ばれた基準は、用地取得の費用対効果の面で1位の池尻と2位の横越です。

下記に指摘しましたが、ずさんな計画は多くの見直しを迫られており、横越の建設費用の大幅な増加は避けられません。現在、試算すれば、3位の溝口を上回るのではないのでしょうか。

支流(内川)を残す計画が進行？

美濃市内の長良川流域は建設省の環境影響調査でも貴重種の生息が多数確認されています。特に、横越側を流れる支流の内川は自然豊かな緩流域があり、貴重種の生息場所になっており、特別天然記念物オオサンショウウオや天然記念物ネコギギなどの貴重種の生息場所となっています。

専門家から「内川を残すべき」との提言を受け、遊水地の中に内川を付け替えながら残す計画を立てています。といっても完成予想図を見ると清流と言われる部分には遊水地の周囲堤（堤防）が造られるため、少しずつしての付け替えになると思われます。

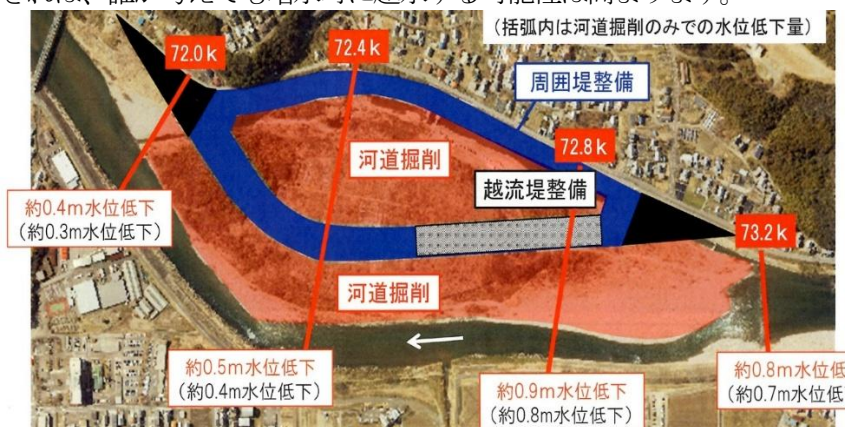
また、横越側には農業用水のための中濃用水が暗渠になって流れています。遊水地の候補地選定の時点では、河川事務所の調査では気付かなかったのでしょうか。2021年当時、会として「暗渠の上に周囲堤を造っても大丈夫なのか」と指摘していましたが、今になって取水口を下流に移転するようです。

豪雨では左岸の越水は避けられない

当会が左岸堤防の脆弱性を指摘し、堤防の補強工事は行われましたが越水対策は取られていません。左岸の現在の堤防高は低い所で61.5mと表示されます（国土地理院地図）。一方で、遊水地の周囲堤は63.5mで現行堤防よりも高い堤防が川の中に造られる計画です。川幅は約600mですが、遊水地完成により川幅は200mに狭まり、左岸堤防で大きくカーブを切り、推定外側の水高は50cm高くなります。左岸堤防の目の前に2m高い堤防ができれば、誰が考えても増水時に越水する可能性は高まります。

美濃市も越水の可能性が高まることを認め、市議会では「増水があるときは住民に早く避難を呼びかける」と回答しています。

危険な構造物は作らなければいけませんし、左岸堤防のそばには岐阜県の中濃総合庁舎がありますので、岐阜県も協力して水害対策を考えるべきです。



霞堤の活用など計画の見直しを！

横越の少し上流の下渡と下流の笠神には、昔から水害時に田畑に水を流し、地域を守ってきた霞堤があります。霞堤は、この他、関市に4か所あります。岐阜県のホームページでも、岐阜県は昔から霞堤を活用して水害対策をしてきたことを誇っています。霞堤は、普段は畑などに使い、増水時は水が流れ、水害を軽減させてきましたが、地元の方に保障があるわけではありません。

既存の霞堤を使えば、安価で環境にも配慮した水害対策ができます。

横越「遊水地」問題学習会 代表:野津 牧 美濃市藍川 2-6 090-1753-2975